

【臨床・研究】

大学附属病院における 温室効果ガス削減の取り組み

しわく くに のり かのう ひとし すぎ はら つかさ
 塩 飽 邦 憲¹⁾ 嘉 藤 等²⁾ 杉 原 司²⁾
 のり た とも み しん じ さだ お かね つき ふみ お
 乗 田 知 実²⁾ 宍 道 貞 雄³⁾ 金 築 文 雄³⁾
 こ ばやし しょう たい
 小 林 祥 泰⁴⁾

キーワード：環境マネジメント，温室効果ガス，病院，ISO14001

要 旨

島根大学は、自然環境と調和する社会を実現することの重要性を認識し、附属病院を含む全キャンパスでの ISO14001 認証取得し、環境への負荷を極力減少させるべく努力を行っている。島根大学出雲キャンパスでは、2008年度に2005年度比で16%減を達成した。麻生首相が2009年6月10日に、2020年までに日本の温室効果ガスの排出量を2005年比で15%減とする中期目標を発表したが、出雲キャンパスでは、日本政府の国際公約である2005年比15%以上の削減を達成したことになる。病院は入院・外来患者のような利害関係者が多い上に、感染性廃棄物などの廃棄物処理が煩雑であるため、医療機関での ISO14001 認証は少ない。まして、教育・研究を本務とする総合大学では、附属病院を含む全キャンパスでの ISO14001 認証は島根大学を除いては皆無である。島根大学での EMS 活動の経過と成果、特に省エネルギー対策による温室効果ガス削減を報告した。

はじめに

島根大学には5学部6研究科、附属学校と附属病院があり、約6,100名の学生、約1,000名の児童生徒と約1,680名の教職員が所属する島根県では大企業の一つとなっている。医学部・附属病院は、これまでは社会に対して医学教育や医療サー

ビスの提供、雇用の創出などの貢献により社会的責任を果たしてきた。しかし、事業所の社会的責任は拡大し、医学部・附属病院と何らかの利害関係を有する患者、国、職員のほか、取引先、地域住民、求職者などとの関係を大切に、具体的かつ実効性のある社会に配慮した行動をとることが求められている。

一方、地球表面の平均温度は、最近100年間で0.74°C上昇し、生態系や人類の生産・健康への悪影響が懸念されている。地球温暖化には、人為的

Kuninori SHIWAKU et al.

1) 島根大学医学部環境予防医学 2) 島根大学施設企画課
 3) 島根大学施設整備課 4) 島根大学医学部附属病院
 連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1